

学校図書館支援センター通信 NO.51 1月号

平成23年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



新年明けましておめでとうございます

年が明け年度末が目前に迫り、学校図書館ではまとめの時期を迎えます。図書の購入や新しい図書の配架手続き、蔵書点検などは計画的に進んでいるでしょうか。次年度の準備も考えていきたいものですね。

平成23年度は、小学校で教科書が新しくなり、授業で使用する図書も新しいものが増えています。新しい単元の授業に必要な図書リストを整理しておきましょう。また、平成24年度は中学校の教科書が新しくなります。こちらも来年度に向けて図書リストの準備を始めておくとよいと思います。

【お知らせ】

12月より、学校図書館の一斉送信用メールのアドレスが変わりました。新しいアドレスは、今までのアドレスの前に new を付けたアドレスになります。古いアドレスはもう使えませんが間違いのないようお願いいたします。また、中央図書館のアドレスも変わりました。すでに中央図書館から新しいアドレスで各学校宛にメールが届いていると思います。各学校のアドレスは今まで通り変更はありません。

名作「あらしのよるに」の作者

きむらゆういちさんをお招きして 読書講演会：塩焼小：



今回は、塩焼小学校で“きむらゆういちさん”をお招きして行われた、『読書講演会』の様子を紹介します。

始めに、放送室から全教室へ向けて“きむらさん”がお話をしました。子どもたちは教室のテレビ画面を通して、きむらさんが、子どもの頃に絵が好きだったことや、なぜ作家になったのか、作品を作る時の方法等、興味深い内容のお話を聞きました。「好きなことが見つかるとう人生が変わる」とおっしゃったきむらさんの言葉に、子どもたちの夢や希望が広がったのではないのでしょうか。また、童話や絵本と一般書との違いについてもお話されました。

童話や絵本は「長い間、読まれている」「必ず、立ち読みしてから（中を見てから）買う」という点が、一般書と違うのだそうです。確かに童話や絵本は昔から多くの人に読まれていますし、絵本を買うときは必ず中を見てから買っていることを思い出しました。その後は、26学級全てで子どもたちと交流してくださいました。

子どもたちはクラスごとに、きむらさんの書かれた作品をたくさん読んで考えた歓迎方法で待ち構え、作品をお芝居にしたり、お話の続きを作って紙芝居にしたりして、趣向を凝らしたおもてなしをしていました。きむらさんは、子どもたちの質問やお願いに、笑顔で丁寧に答えてくださいました。「みなさんに会えて、作品を作る力が湧いてきました。お話の続きを書くときに困ったら、みなさんに相談に来ますね」と、おっしゃっていました。

現在「あらしのよるに」の新シリーズ「ひとりぼっちのカブ」が発売されていますが、もしかしたら、塩焼小学校の子どもたちが考えたお話が絵本になって学校図書館に並ぶ日が来るかもしれませんね。



続・路子の部屋

No.3 まとめて発信する その1
「プレゼン用カード」から「新聞作り」へ！



教科書には、学年に応じてさまざまな“まとめて発信”する方法が載せられています。



生徒作品例

これから3回に分けて、いくつかの手法を紹介していきます。

「新聞作り」は調べたことをまとめるのによい方法の一つです。調べて書いた情報カードを幾つかのグループに分け、優先順位をつけて記事を決めていきます。

トップ記事は、新聞の「テーマ」をもとに、インパクトのある見出しをつけることが重要です。

前回紹介した紙芝居型「プレゼン用カード」で、友だちと交流した後に、カードの内容をうまく使って記事の数を2～3件にしぼると、誰でも新聞に書きやすくなります。記事はできるだけ知り得た情報だけを書くようにし、「考えたこと」や「思ったこと」は別の囲み記事などにまとめると、「プレゼン用カード」での交流がそのまま新聞作りに反映できます。使った図書資料名を記入することも必要です。

私は「個人新聞作り」しか経験がありませんが、グループで作成するときは、一人が一つの記事を担当するなど、全員が活動できる配慮が必要だと思います。

図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

本校の図書委員会の活動の特色として「今日は何の日」というお昼の放送番組があります。これは、その日の暦に関連付けたおすすめの本を、一冊紹介するという活動です。

この活動は、人と本とを結ぶ仕事を担う図書委員の子どもたちの「人の力になりたい」という強い想いから生まれました。

例えば11月30日は、マーク・トゥエインが生まれた日なので「トム・ソーヤの冒険」という本を紹介しました。放送を聞いて、紹介した本を借りに来る人が増え、図書委員も喜んでいました。

図書館経営はまさに「人づくり」だということを実感しています。右の写真は、読書集会の時に図書委員が考えた創作劇「11ぴきのねこ」の発表会の様子です。こちらも大好評でした。

市川市立北方小学校 学校図書館員 益子博美



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

